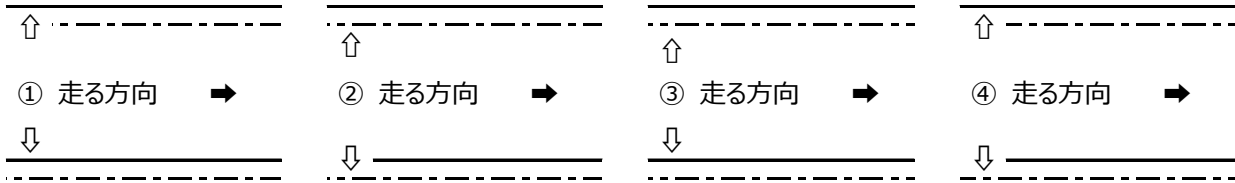


2020（令和2）年度審判講習会・研修テスト

次の文章で正しいものには○、誤っているものには×をつけてください。レーンの幅については正しい番号を記入して下さい。

- (1)トラックのレーンの幅はWAでは1m220となっているがJAAFでは1m250でも良い。ただし2021年4月1日以降の検定からはすべて1m220なる。正しいレーンの幅は何番になるか。（縁石・ラインは5cmとする）



R-160条 2021年4月1日以降レーン幅は1m220となるが、基準となるのはインのラインは含まず、アウトのラインまでとなる。したがってアウトのラインは自分の占有となるが、インのラインは占有ではないので、踏んだ場合は失格となる。（②）

- (2) 公認審判員は年度初めに必ず加盟団体に登録をして、審判講習会を年1回は受けるべきである。

登録会員規定・公認審判員規定の要点（競技規則は毎年修正があるので年1回の審判講習会を受講すべきである。ただ、審判員の昇級に際しては5年のうち3回という緩和措置がある。）

- (3) S級公認審判員を取得すれば審判登録は隔年登録でも良い。

登録会員規定・公認審判員規定の要点（特別な理由がない限り必ず日本陸上競技連盟の登録会員となる。）

- (4) ロードレースではグロスタイム（号砲と同時に時計が作動）とネットタイム（ランナーがスタートラインを通過）があるが、公認競技会においてはグロスタイムのみが採用される。

公認競技会規定（公認の道路競走競技会における公認記録の扱い = 非公認の競技会は競技注意事項に記載）

- (5) 投てき種目において検定での器具の使用が認められているので、やりを2本持ち込んで検査を受ける要望をした。

R187条2 技術総務が決めない限り、…投てき種目に出場する競技者はどの種目にあっても2個まで個人所有の投てき物の使用（持込み）が認められる。占有使用は認められない。

- (6) 検査を受けた自分のやりを、1投目で使用したのち2投目の試技でも使うため、自分のベンチに持っていき、本人の器具なので黙認した。

R187条2(国内)・R125条5 投てき用具は主催者が用意(個人持込物も含む)したものを競技者が使用できることが条件であり、検査をした段階(概ね1～2時間前)の段階で主催者側の備品として扱う。したがって審判員は競技中、すべての競技者が同じ条件で使用できるように管理する。

- (7) 4×100mRにおいて1走と2走のバトンの受け渡しで、第1走者が追いつかず、両者ともテークオーバーゾーンを出てしまったが、気が付いてテークオーバーゾーンに戻ってバトンの受け渡しを完了した。

R170条7 バトンパスの解釈 バトンパスは受け取る競技者に「バトンが触れた時点」に始まり、「唯一のバトン保持者になった瞬間」に成立する。⇒ バトンが触れた時点に始まり、「唯一のバトン保持者になった瞬間」がゾーン内にあることは当然であるが、バトンパスの最中(開始～完了の間)にバトンがゾーンから外に出た場合は、失格の対象となる。

(8) フィールド競技では予選ラウンドにおいて標準記録を超えた12名の競技者で決勝ラウンドが行われる。もし12名が標準記録を突破していない場合は予選ラウンド記録の上位から追加する。

§180-12 予選の諸条件は主催者が決める。決勝は少なくとも12名とすべきである。標準記録を12名以上の競技者がこえた場合は、その人数で実施する。通常の競技会では運営の都合上、予選ラウンドと決勝ラウンドに分けずに決勝とし、多くの人数で実施し、そのなかでいきなりトップ8を決定している。

(9) 写真判定装置など競技審判の設備などが整っていればバックストレッチを使用しての逆走は認められてる。

§163 [国内]直線競走(100m・100mH・110mH)では逆走することは認めない。ただし、公式に計測された競技場において、かつ審判の諸条件が整っている場合はこの限りではない。条件が許され、トラックが適切に検定されていれば直走路の種目は逆走で(すなわち右側が内側)で実施してもよい。

(10) 国内ルールでは同一日に次のラウンド行われる競技ではその記録の発表から30分以内に抗議の申し出がなければ、何ら問題がなかったものとみなされる。そのため主催者は記録発表の時刻を記録しておかなければならない。

§146 [国内]同一日に次のラウンド行われる競技ではその記録の正式発表から15分以内に抗議の申し出がなければ、なんら問題はなかったものとみなされる。その種目の結果は30分以内に行わなければならない。主催者は記録発表の時刻を記録しておかなければならない。➡ 抗議の対応(総務・TIC)

(11) 混成競技は連続する3日間であっても48時間以内でおこなわれれば問題はない。

§200-2 [総則] 1つの種目の終了時から次の種目の開始時までの間に、可能な時はいつでもすべての競技者が競技者が最小限30分の時間をとれるようにしなければならない。できれば1日目の最終種目から2日目の最初の種目との間は最低10時間の間隔をあけるようにする。ドーハの世界陸上では1日目の17:00 最終種目は第3日目の25:00

(12) 長さを競う競技(跳躍・投てき)において、その距離は、cm未満の距離を切り上げた0.01m単位で記録しなければならない。

§184-8 長さを競う競技(跳躍・投てき)において、その距離は、cm未満の距離を切り捨てた0.01m単位で記録しなければならない。切り上げではなく切り捨てである。

(13) 5000mのレースで女子の参加者が7名であったので、非効率的であるために男女混合のレースで実施しようとしたが「2名の競技者は走力がある。」という監督の申し出があり、2名は先の組で実施し、5名はあとの組で実施した。

§147-2 第147条-2 競技場内で行う5000m以上の競技で、男女いずれかまたは男女ともに男女別の競技を実施するには十分な人数がそろわず、男女別々での実施が非効率的な場合は可。男女いずれかが8名以内で男女の合計か名以内の場合にのみ、男女混合で実施することを認める。ただし女子を2組に分けるのは不可。

(14) 混成種競技において、風速を計測する種目の平均秒速が2.0m/秒をこえる追い風があった場合は、その総合得点は公認されない。

§260-18 風力計測を求められる種目(100m・100mH・110mH・走幅跳)では平均秒速(個々の種目で計測された風速を合計し、これを種目数で割ったもの = 男女それぞれ3種目)は2.0m/秒をこえてはならない。

(15) 計測員（科学）は計測装置が正しく作動することを確認するために、その競技種目の開始前と終了後に審判長の監督の下で複数の審判員による検査済みの鋼鉄製巻尺の測定結果と一致するよう一連の計測を管理する。

§135 計測員(科学)は計測装置が正しく作動することを確認するために、その競技種目の開始前と終了時に審判長の確認の下で、複数の審判員による検査済みの鋼鉄製巻尺の測定結果と一致するよう一連の計測を管理する。
この文言より**終了時**を削除。開始のみで良い

(16) 10,000mに出場する競技者が猛暑が予想されたので、アスリートビブス（ビブス）の数字以外の部分に穴をあけたユニフォームにつけて召集所に来た。

§143-9 アスリートビブス(ビブス)は配付された形で着用しなければならず、(略)長距離種目においては風通しをよくするためにアスリートビブスに穴をあけても良いが、文字や数字に穴をあけてはならない。

(17) 猛暑のなかでの競技中であつたが、競技者が帽子を忘れたのでコーチがコーチングエリアから帽子を渡したが、その行為は助力にあたる。

§144-4(f) 競技会において主催者から指定された場所で、あるいは審判長が認めた場合に渡すのは可
同様に指示された場所（コーチングエリア）からの競技者とコーチのコミュニケーションは可

(18) 4×100mRにおいて第2走と第3走間のバトンの受け渡して、両者がバトンに触れたがバトンパスが完了していない状態で、トラブルが発生し、バトンを落としてしまった。この場合には第2走者が拾わなければならない。

§170-7 バトンパスが完了するまではバトンの唯一の保持者は第2走者であり、第3走者保持者ではない。
したがって、バトンパスの途中で、あるいはバトンパスが完了していない状態でバトンを落とした場合、バトンは渡してである第2走者が拾わなくてはならない。

(19) 4×100mRにおいてイエローカードを提示されたが競技者が100mのレースで遅延行為でイエローカードを提示されてしまったので、イエローカード2枚でその競技会から除外される。

§145-3 このイエローカードは当該リレー種目の4×100mRのみに適用され、個々の選手は個別種目への出場はその後の種目への出場を妨げるものではない。個人種目とリレーは別種目扱いとする。

(20) インカレの棒高跳で5m61の高さを3名が挑戦。試技順にAが2回失敗のち3回目をパス。Bが2回目で成功。Cは3回失敗に終わった。次の5m71の1回目でAが失敗したところでBの優勝が確定。

	5m51	5m61	5m71	記録	順位
A	× ○	× × -	×	5m51	2位
B	× ○	× ○	× × ×	5m61	1位
C	× × ○	× × ×		5m51	3位

(対応)

- その後、Bの試技時間を1回目2分、2回目以降は5分に設定して試技をさせた。5m71は3回とも失敗に終わった。その対応（試技時間）は正しいか？

◎ 単独種目

(混成競技は別に定める)

(試技時間の確認)

残っている競技者数	走高跳	棒高跳	その他
4人以上 ※	1分	1分	1分
2～3人	1分30秒	2分	1分
1人	3分	5分	-
連続試技 ※※	2分	3分	2分

- ※ 4人以上または各競技の最初の競技
- ※※ 走高跳・棒高跳では、残っている競技者が2人以上で同一の高さの時のみ適用

§ 上記の対応は ? (× 3分)

§180-17

走高跳・棒高跳では、残っている競技者が2人以上で同一の高さの時のみ適用することになっている。5m71の高さはA・B2名の競技者が挑戦しており、たとえその高さの1回目の試技で優勝が決定しても、Aの連続試技とみなし、Aの2回目・3回目の試技時間は**3分**となる。

解 答 欄

(1) ○	(2) ○	(3) ×	(4) ○	(5) ○
(6) ×	(7) ×	(8) ○	(9) ○	(10) ×
(11) ○	(12) ×	(13) ×	(14) ×	(15) ×
(16) ○	(17) ×	(18) ○	(19) ×	(20) × (3分)

(埼玉陸協・審判委員会への要望)

(中体連 ・ 高体連 ・ 一 般)

所 属

氏 名
